

子ども生活部

令和3年度 協働事業一覧

No.	協働事業名	協働の形態	パートナー	所管課
72	子育て支援サイト「コサイト」の運営支援	情報交換・情報提供	NPO法人ちようふ子育てネットワーク・ちょこネット	子ども政策課
73	「こどもとフラット」の運営支援	情報交換・情報提供	(社福)調布白雲福祉社会, NPO法人ちようふ子育てネットワーク・ちょこネット	子ども政策課
74	子育て情報誌の発行	事業協力	株式会社ジチタイアド	子ども政策課
75	子ども・若者総合支援事業 ここあ	指定管理・業務委託	社会福祉法人調布市社会福祉協議会	子ども家庭課 児童青少年課 生活福祉課
76	健全育成推進地区委員会との連携	補助・助成	健全育成推進地区委員会	児童青少年課
77	調布市青少年ステーション(CAPS)の運営	指定管理・業務委託	NPO法人ちようふこどもネット	児童青少年課
78	子ども・若者居場所事業	補助・助成	特定非営利活動法人青少年の居場所Kiitos	児童青少年課

協働事業名	子育て応援サイト「コサイト」の運営支援	所管部課名	子ども生活部 子ども政策課
事務事業名	子育てに関する情報提供の充実	電話番号	042-481-7757
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
調布市子育て応援サイト「コサイト」は、市内の子育て関連施設や子連れで出かけたい店、子育てのヒントとなるようなコラム、地域のイベント情報など、市内の子育てに関する様々な情報をまとめたサイトであり、市内で子育て中の母親たちが中心となるNPO法人が運営を担っている。行政情報と民間情報をつなぐことで、閲覧者は両情報を一元的に収集でき、利便性の高いサイトとなっている。また、運営団体が持つネットワークにより、地域や民間のきめ細かな情報の収集・発信を可能としている。市では、サイトを周知するチラシを窓口に配架する等の広報支援を行っている。			
協働のパートナー	特定非営利活動法人ちようふ子育てネットワーク・ちょこネット	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	子ども
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	O4子ども・子育て家庭の支援
役割分担	パートナーの役割	子育てに関する情報提供の実施、市への情報提供	
	市の役割	広報支援	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 平成27年度にサイトを開設し、少しずつ認知度も高まってきており、年々利用者が増えている。		
協働したことによる成果			
ユーザーと同じく市内で子育てをしている市民が運営者となることで、当事者として必要な情報や関心を持つ情報を効果的・効率的に発信することができるため、子育て中の母親が子育てに関する悩みを相談できる相手がおらず、孤立してしまうことを防ぐことにもつながっている。また、サイトには子育てに関するイベント情報等も載っているため、ユーザーを街に誘い出し、同じ悩みを持つ人たちのグループの紹介や専門機関への誘導等につなげ、顔の見える関係づくりにも寄与している。			
協働に当たっての課題と対応			
継続的に運営していくための有料クライアント獲得が課題となっている。市としても、コサイトのさらなる認知度向上のため、広報支援等について検討していく必要がある。			

協働事業名	「こどもとフラット」の運営支援	所管部課名	子ども生活部 子ども政策課
事務事業名	子育てに関する情報提供の充実	電話番号	042-481-7757
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
子育て支援施策における行政課題への対応とともに、賑わいの創出を図るという目的で、市内のNPO法人と社会福祉法人が一体的に運営する子育て支援施設（カフェ、子育てひろば）として、両法人に無償貸付を行っている。調布駅前という利便性から、市内の多様な子育て支援団体等からの情報が集まるため、行政では得ることができない情報も含め、市と法人とで様々な情報交換を行い、イベント等実施の際は周知活動へも協力している。			
協働のパートナー	社会福祉法人 調布白雲福祉会（プレイセンターちようふ運営者） 特定非営利活動法人 ちようふ子育てネットワーク・ちょこネット （カフェ「aona」運営者）	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	子ども
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	O4子ども・子育て家庭の支援
役割分担	パートナーの役割	各種事業の実施、市政情報のPR、市への情報提供	
	市の役割	各種事業実施の支援、市政情報の提供	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 平成26年度に運営団体のプロポーザルを実施し、平成27年度から運営を開始している。		
協働したことによる成果			
子育て応援サイト「コサイト」と同様、市内の子育て情報を官民間問わずPRできる場であるため、多くの子育て支援事業の実施者や、これから子育て支援事業を立ち上げたいと考えている市民などが多く集う場となっており、市内の子育て世帯の情報収集の場として機能している。			
協働に当たっての課題と対応			
市の情報をPRしてもらうことや、運営法人の情報を市でPRするなどのやりとりはできているが、「こどもとフラット」を活用した市民の声の収集などについても今後検討を進めていく必要がある。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	子育て情報誌の発行	所管部課名	子ども生活部 子ども政策課
事務事業名	子育てに関する情報提供の充実	電話番号	042-481-7757
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
子ども生活部と福祉健康部が連携し、民間会社との官民協働により、作成した子育て情報誌。妊娠期から子育て期にわたる切れ目ない支援の推進に向けた取組のひとつで、主にこれから出産を控えた妊婦の方を対象に配布。出産後、市の子育て支援サービスを切れ目なく受けることができるように月齢順に構成している。			
協働のパートナー	株式会社ジチタイアド		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 子ども
			関連施策※ 04子ども・子育て家庭の支援
役割分担	パートナーの役割	子育て支援情報誌の発行	
	市の役割	市政情報の提供	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 年度ごとに協定書を交わし、本誌の作成を行う（令和3年度の情報誌発行に係る協定は令和2年12月に締結。）		
協働したことによる成果			
本誌の発行に当たっては、協働パートナーが広告収入を基に編集・作成を行ったため、市の負担は0円で作成することができた。また、市の子育て情報を提供するツールとして、ゆりかご調布面接等で妊婦の方を中心に配布し、活用することができた。			
協働に当たっての課題と対応			
協働パートナーとは委託ではなく、協定書の締結により事業を行っているため、一方的な要望にならないようお互いに調整していく必要がある。			

協働事業名	子ども・若者総合支援事業 ここあ	所管部課名	子ども生活部 子ども家庭課 (042-481-7103)
事務事業名	困難を抱える子ども・若者の支援	電話番号	子ども生活部 児童青少年課 (042-481-7536) 福祉健康部 生活福祉課 (042-481-7098)
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
貧困の連鎖を防止するとともに社会的に困難を抱える子ども・若者の自立を支援するため、ひとり親家庭における日常生活や学習に関する相談及び学習機会の提供を行う「ひとり親家庭の学習・相談支援事業」（子ども家庭課）、概ね15歳以上の不登校やひきこもり等の子ども・若者を対象に相談や居場所提供を行う「子ども・若者総合相談事業」（児童青少年課）、生活困窮世帯等の中学生の学習を支援する「生活困窮者自立支援事業」（生活福祉課）を一体的に展開する「子ども・若者総合支援事業 ここあ」を平成27年度から実施している。			
協働のパートナー	社会福祉法人調布市社会福祉協議会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 子ども
			関連施策※ 04子ども・子育て家庭の支援 06青少年の健全育成 10セーフティネットによる生活支援
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・運営、相談対応、ボランティアの募集・管理	
	市の役割	事業の企画、広報、利用申請	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 平成27年度から事業を実施しており、現状や課題を共有するなど定期的に調整を行いながら、より良い支援の提供に努めている。		
協働したことによる成果			
パートナーである調布市社会福祉協議会は、長年に渡り市の地域福祉を担ってきたことから、様々な福祉のノウハウを有するとともに市民ボランティアの育成などの実績を持つ。また、分野横断的に様々な支援機関とも円滑な連携がとれており、柔軟な運営が行われている。 なお、令和3年度の子ども・若者総合支援事業全体の利用者数は、延べ10,818人（相談事業6,249人、学習支援事業3,445人、居場所事業1,124人）で令和2年度から3,217人の増加となっており、事業開始以来初めて1万人を超えることとなった。			
協働に当たっての課題と対応			
令和3年度における延べ利用者数は10,818人と過去最高となったが、ここあが存在が浸透したことにより、今後も利用者数は増加していくものと考えられる。今後も、利用者切れ目ない手厚い支援を提供していくため、運営スタッフの人数を含めた体制について見直しを図っていくとともに、総合福祉センターの移転による利用者への影響が小さくなるよう、検討を進める必要がある。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	健全育成推進地区委員会との連携	所管部課名	子ども生活部 児童青少年課
事務事業名	健全育成推進地区委員会による地域健全育成活動の推進	電話番号	042-481-7536
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
調布市健全育成推進地区委員会の活動に対して交付金を交付することにより、地域における社会環境浄化の活動及び非行防止活動並びに青少年の社会参加及び地域活動の機会を充実し、青少年の健全育成を図っている。			
協働のパートナー	健全育成推進地区委員会	事業提案者	市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成	分野	子ども
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		
役割分担	パートナーの役割	青少年の非行防止及び啓発活動、青少年の社会参加及び社会貢献を促進する活動、青少年の意見表明、体験発表及び行政参加に関する活動、青少年の体育、文化及びレクリエーション活動	
	市の役割	交付金交付、会議運営、資料提供、意見集約	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業		
	各地区委員会の取組を地区間で共有したり、地区同士で連携することで、より効果・効率的な取組を検討・実施している。		
協働したことによる成果			
各地域をよく知り、他の地域活動団体や学校等との幅広いネットワークを持つパートナーとの協働により、多くの市民の参加や協力を得ることができ、子どもの健全育成に寄与した。			
協働に当たっての課題と対応			
青少年の健全育成には、地域のつながりや多くの子どもたちの事業への参加が重要である。引き続き、青少年と地域の大人が世代を超えて交流し、あわせて青少年同士の親善が深められるよう健全育成推進地区委員会の活動を支援していく。			

協働事業名	調布市青少年ステーション（CAPS）の運営	所管部課名	子ども生活部 児童青少年課
事務事業名	青少年ステーション（CAPS）における中・高校生世代の健全育成	電話番号	042-481-7534
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
青少年の健全育成を目的とし、主に中・高校生世代を対象に多様な分野（スポーツ、音楽、ダンス、クラフト、パソコン等）の活動を支援する。それぞれの分野において専門知識を有するスタッフが、中・高校生世代の要望を満たす事業展開を図る。また、多感な年代の様々な悩み・相談に対応する相談事業も行う。四半期毎の事業報告において、事業実施状況や利用者のニーズ及び課題等の確認を行い、予算や運営方針に反映して各種事業を展開している。			
協働のパートナー	NPO法人ちようふこどもネット	事業提案者	市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	子ども
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		
役割分担	パートナーの役割	実情により創意工夫をし対応することにより、より利用者のニーズに沿った運営の実施	
	市の役割	地域と協働した、中・高校生世代の健全な居場所や活動支援等の拠点の確保の提供	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業		
	平成15年度の開設後、専門性のある人材の安定的かつ継続的な配置や、事業内容の充実を図るため、平成19年度から、プロポーザルによりNPO法人ちようふこどもネットに運営を委託した。さらに平成30年度から令和4年度までの5年間は、業者指定により、同法人に運営を委託している。		
協働したことによる成果			
コロナ禍において利用制限がある中ではあったが、感染拡大防止を講じての青少年の健全な居場所の確保や活動支援等の役割を果たした。また、東部地域の中・高校生世代の居場所事業についても、つつじヶ丘児童館ホールや東部地域の児童館を活用した試行実施を継続したことで得た反省点等から、利用者拡大に向けた事業内容を検討し、今後は緑ヶ丘児童館と緑ヶ丘地域福祉センターで実施する。			
協働に当たっての課題と対応			
開館から15年以上経過する中で、運営に対する客観的な意見を把握する仕組みについて検討する必要がある。また、試行実施している東部地域の中・高校生世代のフリースペース事業については、専門的なノウハウを活かした取組のほかにも、地域の中学生との意見交換会等を行い、利用者ニーズを把握した運営方法を検討し、より推進を強化する。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	子ども・若者居場所事業	所管部課名	子ども生活部 児童青少年課	
事務事業名	子ども・若者支援の推進	電話番号	042-481-7536	
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
市内において社会生活を円滑に営むうえで困難を有する子ども・若者の居場所提供事業を実施する団体に対し、事業に要する経費の一部を補助することにより、困難を有する子ども・若者の自立した社会生活の実現を図る。				
協働のパートナー	特定非営利活動法人青少年の居場所K i i t o s	事業提案者	市	
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	子ども
			関連施策※	06青少年の健全育成
役割分担	パートナーの役割	困難を有する子ども・若者への居場所提供		
	市の役割	補助金の交付等		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 困難を有する子ども・若者の自立に向けた支援のためには何が必要であるか、補助金を利用している団体の意向を確認しながら運用を行っている。			
協働したことによる成果				
ノウハウやネットワークを持つ団体が、居場所の提供や利用者からの相談対応を行うことで、実態に即した支援を行うことができるとともに、様々な問題を抱える子ども・若者に対する居場所の確保につながった。また、困難を有する子ども・若者及びその家族に対し長期的・継続的支援を行うことにより、心身ともに安定し、生活習慣、食習慣の見直しが図られた。				
協働に当たった課題と対応				
これまで、本補助金の交付団体は年間を通じて1団体のみとなっているが、申請件数の増加や、本補助金とは別に当課にて検討を進めている自立支援に資する補助制度の創設を見据え、制度の見直しを含めて検討を行っていく必要がある。				

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

福祉健康部

令和3年度 協働事業一覧

No.	協働事業名	協働の形態	パートナー	所管課
79	第71回“社会を明るくする運動”	実行委員会	社会を明るくする運動調布市推進委員会	福祉総務課
80	高齢者健康づくり事業	補助・助成, 情報交換・情報提供	麻雀教室, 東京YWCA国領, ソング 布田…他	高齢者支援室
81	生活支援体制整備事業	事業協力	市民	高齢者支援室
82	調布市障害者余暇活動支援事業「ほり で一ぷらん」	実行委員会	ほりで一ぷらん実行委員会	障害福祉課
83	あおぞらサッカースクール	事業協力, 補助・助成	FC東京, 認定特定非営利活動法人 トラソッス	障害福祉課
84	「がん啓発・がん検診の受診率向上に向 けた包括的連携」に関する協定に基づく 普及啓発事業	共催	アフラック生命保険株式会社	健康推進課
85	歯と健康のつどい	共催	一般社団法人調布市歯科医師会	健康推進課
86	緊急医療救護所設置・運営訓練	事業協力	調布市医師会, 調布市歯科医師会, 調布市薬剤師会, 調布市柔道整復 師会	健康推進課

協働事業名	第71回“社会を明るくする運動”	所管部課名	福祉健康部 福祉総務課
事務事業名	社会を明るくする運動の推進	電話番号	042-481-7101
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
犯罪や非行の防止と罪を犯した人たちの更生についての理解を求めるとともに、それぞれの立場で力を合わせ、犯罪のない明るい社会を築こうとする全国的な運動に取り組んだ。実施に当たっては、犯罪防止や青少年の健全育成などの活動を行っている団体による実行委員会方式で取り組んだ。			
協働のパートナー	社会を明るくする運動調布市推進委員会 (調布保護司会, 調布・狛江地区更生保護女性会, 調布市民生児童委員協議会, 調布市赤十字奉仕団, 調布市健全育成推進地区委員会, 調布市青少年補導連絡会, 市立学校PTA 他)	事業提案者	市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	分野	福祉
		関連施策※	07共に支え合う地域福祉の推進
役割分担	パートナーの役割 事業の運営（保護観察所との連絡調整） 市の役割 推進委員会事務局（事業の準備, 各団体への連絡調整）		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 法務省が主唱している全国的な運動であり、今後もパートナーと連携を図り、効果・効率的な取組を検討し実施する。		
協働したことによる成果			
新型コロナウイルスの影響により予定していた事業は中止となったが、推進委員会を書面にて開催し、事業の実施可否等について市民目線を取り入れた検討をすることができた。			
協働に当たっての課題と対応			
コロナ禍においても継続して事業を実施するため、また各事業について各団体から安心して御協力いただくために、事業内容を検討する必要がある。			

協働事業名	高齢者健康づくり事業	所管部課名	福祉健康部 高齢者支援室
事務事業名	高齢者健康づくり事業の推進	電話番号	042-481-7150
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
高齢者が認知症や寝たきりにならず、元気で生きがいを持って自立した生活が送れるよう、既存の商業施設等の営業時間外を活用して健康づくり事業を実施する。（いきいき麻雀、ティーボットサロン、飲食店活用ミニデイ、柔ちゃん体操教室、健康ウォーキング教室、いきいき将棋同好会） 市は調布市高齢者健康づくり事業補助金交付要綱に規定する事業について、補助金を交付し、運営団体をサポートする。健康ウォーキング教室については、協働推進課の地域カルテに基づいて平成24年度から実施。			
協働のパートナー	麻雀教室, 東京YWCA国領, ソング布田, (公社)東京都柔道整復師会武蔵野支部調布地区, 八雲台小学校地区協議会, 調布市将棋連盟	事業提案者	市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	分野	福祉
		関連施策※	08高齢者福祉の充実
役割分担	パートナーの役割 事業の企画・運営, 広報, 参加者募集 市の役割 事業の企画, 情報提供, 市報掲載		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 参加者から友人をお誘いいただき、新規の参加者を増やす取組を行っている。		
協働したことによる成果			
介護保険事業や既存のサロンにはないサービス提供を行うことで、高齢者が外に出るきっかけとなり、健康づくりを推進することができた。			
協働に当たっての課題と対応			
当該事業の利用者が固定化し、新規利用者を増やすことが課題。既存の広報活動（市報・市ホームページ掲載）の他、都の事業を活用した新たな活動の創出に取り組んだ。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	生活支援体制整備事業	所管部課名	福祉健康部 高齢者支援室
事務事業名	生活支援体制整備事業	電話番号	042-481-7150
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
生活支援体制整備事業は①多機関協働の支援体制の構築、②地域での支え合い活動の創出、③社会参加でハリのある生活の3つの視点で地域づくりを実施する。 そのため、事業実施に当たって、市民と共にニーズの検討やそれに対応した地域資源の見える化を行った。			
協働のパートナー	市民		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 福祉
			関連施策※ O8高齢者福祉の充実
役割分担	パートナーの役割	事業の企画、情報提供	
	市の役割	事業の企画、情報提供、市報掲載	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 参加者から友人をお誘いいただき、新規の参加者を増やす取組を行っている。		
協働したことによる成果			
市民及び企業、行政が集まり、高齢者が自立した生活を送ることができるよう、企業や地域団体等が行う独自の支援、サービス、地域活動等を集約し、公表するキャンペーンを運営している。令和3年度はさらなる周知を図るための話し合いを行い、チラシを作成した。			
協働に当たっての課題と対応			
高齢者が必要とする企業や地域団体等が行う独自の支援・サービス・地域活動等の内容は多岐にわたるが、参加者が少なく、活動に限りがあることが課題である。そのため、参加者を増やすために、興味関心のある友人等をお誘いいただいている。			

協働事業名	調布市障害者余暇活動支援事業「ほりで一ぱらん」	所管部課名	福祉健康部 障害福祉課
事務事業名	調布市障害者余暇活動支援事業	電話番号	042-481-7135
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
主に重度知的障害のある方を対象とした余暇活動イベントを開催し、余暇活動の充実、運動不足の解消、ご家族の負担軽減を図るもの。イベント開催に当たり、ボランティアや地域住民、関係機関の協力を得ることで、障害理解の推進を図ることも目的としている。市や調布市福祉作業所等連絡会、相談支援事業所、ボランティアなどで実行委員会を組織し、イベントの実施及びイベント内容の検討を行った。			
協働のパートナー	ほりで一ぱらん実行委員会 (市、調布市福祉作業所等連絡会、相談支援事業所、ボランティア)		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 福祉
			関連施策※ O9障害者福祉の充実
役割分担	パートナーの役割	イベントの企画運営、イベント内容の検討、事業の周知。	
	市の役割	事業費の拠出、イベントの企画運営、イベント内容の検討、事業の周知。	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 様々なイベント内容を検討し、スポーツチームとの交流事業等、普段外出の機会が限られた障害者が楽しむことができるイベントを引き続き開催していく。		
協働したことによる成果			
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、例年より規模を縮小し、参加人数を絞ったうえでの開催となったが、調布市福祉作業所等連絡会やボランティアの協力を得て人員体制を確保し、配慮が必要な重度の障害者も安心して参加することができた。また、送迎、昼食を提供することで、家族の負担を軽減することができた。			
協働に当たっての課題と対応			
実行委員会やイベント当日の運営にあたるボランティアの確保や、作業所職員の負担の大きさが課題となっている。イベント運営等に経験のある新たなパートナーの参画を含め、継続的に事業を運営していくための体制検討に取り組んでいる。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	あおぞらサッカースクール	所管部課名	福祉健康部 障害福祉課
事務事業名	障害児（者）フットサル事業	電話番号	042-481-7135
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
FC東京とのパートナーシップに基づき、スポーツ振興課で実施していた「にこにこサッカークリニック事業」を発展させ、平成30年度から「あおぞらサッカースクール」として、対象者の拡大（障害児のみならず、障害者も対象）を行ったほか、不定期開催だったところ、原則月1回開催するスクール方式に変更するなど一部充実を図ったうえで、3つのクラスでそれぞれの能力に合わせたフットサル教室を実施している。令和元年度からは定例のスクールに加えて他チームも交えた交流会を実施している。			
協働のパートナー	FC東京、認定特定非営利活動法人トラッソス		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 福祉
			関連施策※ 09障害者福祉の充実
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・運営	
	市の役割	広報・運営・準備等のサポート	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 平成30年度に、スポーツ振興課から移管し、内容を充実させたうえで継続実施している。		
	協働したことによる成果		
社会的障壁等を理由にスポーツ等余暇活動を行う機会が少ない障害児・者に対して、FC東京及びトラッソスのもつノウハウにより、障害特性に応じたフットサル事業の実施ができています。また、令和元年度からは、市内在住・在学のスクール参加者と市外の同様のスクール参加者等による交流会も実施しており、試合等を通して参加者同士で交流の幅を広げることができました。			
協働に当たっての課題と対応			
令和3年度は新型コロナウイルスの影響でスクールを中止とした月があったが、代替策として交流会実施日に補講を実施した。また、雨天時は中止が避けられないため、開催回数とその年によって増減している。可能な範囲で別日の交流会にスクールを同日開催するなど、代替措置を講じることもあるが、その場合の場所の確保が困難な状況となっている。			

協働事業名	「がん啓発・がん検診の受診率向上に向けた包括的連携」に関する協定に基づく普及啓発事業	所管部課名	福祉健康部 健康推進課
事務事業名	がん検診の充実	電話番号	042-441-6100
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
アフラック生命保険株式会社と調布市の間で、平成22年2月に締結した「調布市とアフラックとのがん啓発・がん検診の受診率向上に向けた包括的連携に関する協定書」に基づき、がんの正しい知識の普及啓発や、がん検診の受診の奨励やがん検診についての普及啓発を行う。令和3年度は新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、普及啓発活動と小児がん経験者・がん遺児奨学金制度のための街頭募金の実施を見送った。			
協働のパートナー	アフラック生命保険株式会社		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 福祉
			関連施策※ 12生涯を通じた健康づくり
役割分担	パートナーの役割	企業として培ったがんの知識や検診の普及啓発のノウハウ・啓発ブース用のパネル等の提供など	
	市の役割	市民に対しての広報や市内関係各所との調整など	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 調布市とアフラック生命保険株式会社との「がん啓発・がん検診の受診率向上に向けた包括的連携に関する協定書」に基づき、協議を重ねながら、目的達成のための効果的な事業を検討し実施している。		
	協働したことによる成果		
新型コロナウイルス感染症の影響に伴い、パートナーとの協働によるがんに関する普及啓発事業と小児がん経験者・がん遺児奨学金制度のための街頭募金の実施を見送ったが、小児がんの子どもたちとその家族への支援として、市職員や福祉関係団体等を対象に募金の呼びかけを行った。			
協働に当たっての課題と対応			
協定に基づき、長期的・継続的な事業を実施するため、年間を通じたパートナーとの話し合いなど、円滑な連携体制の構築が必要である。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	歯と健康のつどい	所管部課名	福祉健康部 健康推進課
事務事業名	健康教育の推進	電話番号	042-441-6100
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市民に対し、歯と口腔の健康保持の大切さを啓発するため、歯の衛生週間に合わせ、8020（ハチマルニイマル）と図画・ポスター・標語コンクールの対象者を募集し表彰を行った。 ※令和3年度は新型コロナウイルスの影響に伴い、式典は実施しなかった。			
協働のパートナー	一般社団法人調布市歯科医師会		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成		分野 福祉
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		関連施策※ 12生涯を通じた健康づくり
役割分担	パートナーの役割	専門的な歯科相談や講演会の開催、表彰式の運営等	
	市の役割	市民に対するの広報や8020（ハチマルニイマル）の表彰の準備・調整など	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 「生涯を通じた歯の健康づくり」を目的として、歯の衛生週間にちなみ、調布市歯科医師会と共催で歯科保健への関心を高めるために各種催しを実施している。		
協働したことによる成果			
パートナーの専門性を活用し、表彰することで、市民に対し歯と口腔の健康保持の大切さを普及啓発できた。			
協働に当たっての課題と対応			
本協働のパートナーとは、様々な事業において市と連携する機会が多いため、各事業における連携だけでなく、日頃からパートナーと情報交換を行うなど、円滑な連携を図ることで、より良い協働関係を築くことができる。			

協働事業名	緊急医療救護所設置・運営訓練	所管部課名	福祉健康部 健康推進課
事務事業名	医療救護体制	電話番号	042-441-6100
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市は、調布市医師会、調布市歯科医師会、調布市薬剤師会、調布市柔道整復師会と「災害時の医療救護活動についての協定」を締結している。また、調布市地域防災計画により、震災など大規模な災害が起きた際に、限られた医療資源の中で、一人でも多くの方の命を救うため、市内8病院と東京慈恵会医科大学附属第三病院に緊急医療救護所を設置することとしている。協定に基づき、地域防災計画に位置付けた緊急救護所設置場所において、平成25年度から順次救護所設置・運営訓練を実施している。			
協働のパートナー	調布市医師会、調布市歯科医師会、 調布市薬剤師会、調布市柔道整復師会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成		分野 防災
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		関連施策※ 01災害に強いまちづくり 12生涯を通じた健康づくり
役割分担	パートナーの役割	各専門的見地による災害医療救護活動	
	市の役割	緊急医療救護所の設置訓練の準備、市報・市ホームページへの掲載	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 地域防災計画に位置付けた計9病院において、個々の訓練での成果を他病院での訓練に活かしながら、順次訓練を実施している。		
協働したことによる成果			
パートナーである各団体の専門性を活用し、治療の優先順位を決めるトリアージを行い、処置や治療、搬送を行うなど、災害時の医療救護体制に備えている。また、災害時の医療救護体制については、各団体の協力の下、緊急医療救護所訓練の内容や医療用資器材の備蓄等について毎月協議する体制を構築するなど、日常的な連携を図っている。 ※令和3年度は新型コロナウイルスの影響で災害医療委員会及び緊急医療救護所訓練は実施できなかった。			
協働に当たっての課題と対応			
令和3年度は新型コロナウイルスの影響で訓練は中止したが、慈恵第三病院・狛江市・調布市において通信訓練を実施した。協定締結先である、調布市医師会、歯科医師会、薬剤師会、柔道整復師会の協力を得ながら訓練を実施しており、各団体との調整や連携が重要である。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

環境部

令和3年度 協働事業一覧

No.	協働事業名	協働の形態	パートナー	所管課
87	公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業	共催, 事業協力, 情報交換・情報提供	調布未来のエネルギー協議会, 調布まちなか発電株式会社	環境政策課
88	崖線緑地保全	補助・助成	入間・樹林の会, カニ山の会, 若葉の森3・1会, 若葉緑地の会, 凸凹森の会, 緑につつまれた街づくりの会, 入間町2丁目緑地の会	緑と公園課
89	公遊園等清掃協力	補助・助成	自治会, 子ども会, 老人会, 地域グループ	緑と公園課
90	花いっぱい運動事業	補助・助成	自治会, 地域グループ	緑と公園課
91	資源物地域集団回収事業	補助・助成	市民団体	ごみ対策課

協働事業名	公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業	所管部課名	環境部 環境政策課
事務事業名	公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業	電話番号	042-481-7086
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市は、公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業について、市民等との協働により検討を進めてきた。本事業は、事業者により市の公共施設の屋根等を貸し出し、再生可能エネルギーの固定価格買取制度を活用した太陽光発電事業を実施することにより、再生可能エネルギーの普及・促進、停電時の電力確保、収益の一部を市や市域へ還元することを目的としている。公募型プロポーザルにより選定した「調布まちなか発電株式会社」は平成26年度から34施設において発電を開始し、収益の一部を活用した啓発事業等を実施している。			
協働のパートナー	調布未来のエネルギー協議会、調布まちなか発電株式会社		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 環境
			関連施策※ 26地球環境の保全
役割分担	パートナーの役割	再生可能エネルギー等の普及啓発に係る検討	
	市の役割	公共施設の屋根貸しによる太陽光発電事業に係る進捗状況の確認等	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 平成25年11月に「調布市太陽光発電に係る公共施設屋根貸し事業協定書」を結び、事業期間を25年以内としているため。		
協働したことによる成果			
市の公共施設の屋根をパートナー（調布まちなか発電株式会社）に貸出し、事業を実施することで、市内事業者の活用ができた。また、市内事業者が売電収益の一部を活用し、市や市域への還元（オンラインセミナーの開催）を実施することにより、市民の環境意識の高揚も併せて行うことができた。			
協働に当たった課題と対応			
パートナー（調布まちなか発電株式会社）と市との役割分担については、協定を締結し明確にその役割分担等を規定しているが、事業期間が20年超となることから、事業の継続に向け、市側の人事異動等に伴う担当者変更に対する引き継ぎ等について、着実に実施する必要がある。			

協働事業名	崖線緑地保全	所管部課名	環境部 緑と公園課
事務事業名	公園・緑地、崖線樹林地の保全	電話番号	042-481-7083
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市の緑の骨格といわれる貴重な崖線緑地の整備に伴い、ワークショップに集まった市民が任意団体を立ち上げ、市との協働により崖線緑地の保全に取り組む事業である。都会に残った貴重なまとまりのある緑地の植生を生かした下草刈りや樹木のせん定などの緑地保全活動により、崖線緑地の美観と快適な空間を保持し、市民に緑地の効果とともに、自然環境保全の大切さについて理解してもらうことを目的としている。			
協働のパートナー	入間・樹林の会、カニ山の会、若葉の森3・1会、若葉緑地の会、凸凹森の会、緑につつまれた街づくりの会、入間町2丁目緑地の会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 環境
			関連施策※ 27水と緑による快適空間づくり
役割分担	パートナーの役割	市民が公園を快適かつ安全に利用できるように清掃・除草などの活動を継続的に行う。	
	市の役割	活動団体への活動場所の提供、保全活動に関する情報提供及び支援、活動内容についての広報、保全活動に対する指導助言などを行う。	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 崖線地区の保全活動を継続的に行っているが、活動にあたって怪我や事故のないよう安全講習会を実施している。		
協働したことによる成果			
崖線緑地の整備に伴う市民参加の機会に集まった市民が、継続的に崖線緑地保全に関わることでできる機会を創出することができ、市民の主体性を高めるとともに、自然環境保全についてより身近に感じてもらうことにつながった。また、地域の実情に合わせて活動を行うことができ、周辺住民も参加できるような企画を行うことができた。			
協働に当たった課題と対応			
「協働」に対する理解・意識共有を深めるため、定期的に連絡会を開催しお互いの意見交換や各団体間の情報交換を行った。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	公遊園等清掃協力	所管部課名	環境部 緑と公園課
事務事業名	公園・緑地，崖線樹林地の保全	電話番号	042-481-7083
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市内の公遊園等において，近隣の自治会や老人会などの地域団体の協力を得て，清掃・除草などを実施するもの。清掃活動は地域団体が自主的に行い，市は公遊園等の面積に応じて謝礼金を支払った。			
協働のパートナー	自治会・子ども会・老人会・地域グループ		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 環境
			関連施策※ 27水と緑による快適空間づくり
役割分担	パートナーの役割	市民が公園を快適かつ安全に利用できるように清掃・除草などの活動を継続的に行う。	
	市の役割	公遊園等の美化，維持管理及び公遊園施設の点検を行う地域団体に対して，公遊園等の面積に応じて謝礼金を支払う。	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 市民が身近な公園の清掃に携わることで，公園に愛着を持っていただくことができ，次年度の活動にもつながっている。		
協働したことによる成果			
各公遊園の周辺住民や，日頃から公遊園を利用している市民が主体的に清掃活動に関わることで，パートナーの自主性を活かし，公遊園に対する愛着や市民の主体性を高めることにもつながった。			
協働に当たった課題と対応			
新たな団体の参加もあるが，団体構成員の高齢化により活動を辞める団体も毎年発生しているため，参加する団体が増えるよう要領の見直しを含め，検討を重ねていく。			

協働事業名	花いっぱい運動事業	所管部課名	環境部 緑と公園課
事務事業名	花いっぱい運動事業	電話番号	042-481-7083
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
明るく潤いと安らぎのある調布を目指して，花苗を植え，花を咲かせて地域の緑を豊かにすることを目的に，緑化活動を進める市内の地域グループに対して，その活動に要する経費を一部補助し，花いっぱい運動事業を進めている。			
協働のパートナー	自治会・地域グループ		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 環境
			関連施策※ 27水と緑による快適空間づくり
役割分担	パートナーの役割	花苗を植付け，花壇の適切な維持管理を行う。	
	市の役割	花いっぱい運動事業に協力する地域団体に対して，植付け場所の面積に応じて補助金を支払う。	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 自治会やグループで草花を育てることで地域のコミュニケーションが活性化され，活動の継続につながっている。		
協働したことによる成果			
花壇活動を通して地域住民の花への関心を高めている。令和3年度は他のグループとの交流会や花壇づくりの実践的な講座等を開催し，意見交換の場を設けたことで，グループのモチベーションや自主性の向上につながった。			
協働に当たった課題と対応			
グループの構成員の高齢化により，参加者が少ないグループも増えている。グループ活動の継続に向けて，行政としてもイベントや市ホームページでの活動紹介を行うなど花いっぱい運動の宣伝周知に努める。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	資源物地域集団回収事業	所管部課名	環境部 ごみ対策課
事務事業名	ごみの減量と資源化	電話番号	042-306-8781
事業の概要 （協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
子ども会や自治会など、市内に所在する資源物の回収を行う市民団体（令和4年3月31日現在、245団体が登録）が、新聞・雑誌・ダンボールなどの古紙類やカン、ビン、古布類、牛乳パックを集めて、資源物を再利用処理施設へ運搬する業者に引き渡している。市から団体や業者へ奨励金を交付することにより、ごみの減量と自主的な資源循環の取組を推進している。			
協働のパートナー	市民団体	事業提案者	市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野
			環境
役割分担	パートナーの役割	資源物の収集を行い、資源物の適正な資源化を行う。	
	市の役割	奨励金を交付し、活動資金として有効利用してもらう。	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 市報や市ホームページなどの広報により、参加団体の拡大を図っている。		
協働したことによる成果			
各団体が自主的に資源物の収集を行うことで、ごみ減量やリサイクルへの意識が高まっている。また、地域の方々が一緒になって資源物の収集に取り組むことにより、地域のコミュニティづくりにも役立っている。回収した資源物は、資源物回収業者への引渡し量に応じて、1kgあたり8円の奨励金を市が交付しており、交付された奨励金は、団体の活動資金として有効な活用ができる。			
協働に当たった課題と対応			
市報や市ホームページ、調布エフエムのほか、広報誌「ザ・リサイクル」及び調布市ごみリサイクルカレンダー等による周知を行い、参加団体の拡大を図る。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

都市整備部

令和3年度 協働事業一覧

No.	協働事業名	協働の形態	パートナー	所管課
92	景観まちづくりの推進	事業協力	調布市景観まちづくり市民検討会	都市計画課
93	まちの「つながり」プロジェクト 講演&トークセッション	事業協力	調布市空き家等対策推進協議会, 社会福祉法人調布市社会福祉協議会, 共立女子大学, SUGAWARADAISUKE建築事務所株式会社	住宅課
94	スマイのミライセミナー・個別相談会	共催	調布市空き家ワンストップ相談窓口事業者 (日本地主家主協会, 東京都建築士事務所協会(南部支部), 東京都行政書士会 調布支部, ミサワホーム, 三井住友信託銀行, 多摩信用金庫)	住宅課
95	～15年後の我が家へ～住まいのフォトレター展	事業協力	晃華学園中学校高等学校, 共立女子大学他	住宅課
96	調布市ふれあいのみちづくり事業	事業協力, 情報交換・情報提供	大町自治会ほか17団体	道路管理課
97	TSマーク付帯保険加入促進事業	事業協力, 補助・助成, 情報交換・情報提供, 指定管理・業務委託	調布市自転車商協同組合 調布支部	交通対策課
98	北部地域巡回公共交通(実証実験)事業	事業協力, 情報交換・情報提供	北ノ台まちづくりネットワーク・ふじみ地区自治会等連合会・北部地区まちづくり推進準備会のほか, 深大寺北町, 深大寺東町の市民	交通対策課

協働事業名	景観まちづくりの推進	所管部課名	都市整備部 都市計画課
事務事業名	景観行政事務	電話番号	042-481-7442
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市の景観形成に関する課題や将来像について、市民の視点から調査・検討するため、定員枠を40人としたうえで「調布市景観まちづくり市民検討会」を設置している。令和元年から2年にかけては「駅の景観」をテーマに景観シンポジウム、先進事例視察、調布市内9駅の景観の調査・検討を実施。令和3年度はコロナ禍において集合形式の検討会は行えなかったが、課題対応形式で各メンバーに市内9駅のうち3駅についての「駅周辺の魅力発見」をテーマに調査・検討を依頼。調査内容について「ちよふ景観だより」で取りまとめて掲載した。			
協働のパートナー	調布市景観まちづくり市民検討会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 都市整備
			関連施策※ 21良好な市街地の形成
役割分担	パートナーの役割	市の景観形成に関する課題及び将来像についての検討	
	市の役割	事業の企画・運営	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 市民との協働、市民活動を支援する景観まちづくりの取組として、平成27年度に「調布市景観まちづくり市民検討会」を設置、市民と市の景観形成に関する課題及び将来像について調査・検討等を行っている。		
	協働したことによる成果		
市内の魅力的な景観資源の発見・共有を図るため、第1期（平成27年～平成28年）では市民検討会での調査・研究を基に調布市景観形成ガイドライン（屋外広告物編・身近な景観編・緑の景観づくり国分寺崖線編）を作成。第2期（平成28年～平成31年）では深大寺と国分寺崖線についての調査・検討内容をまとめた「調布の景観ー深大寺・国分寺崖線編ー」を作成。第3期（令和元年～）では「駅の景観」についての調査・検討を行い、その活動記録を「ちよふ景観だより」に掲載している。			
協働に当たった課題と対応			
市民との連携において、情報や課題を共有し個々の意見を聞き整理することが、事業をまとめるうえで大切な要素であり課題と考えている。役割分担を参加者のニーズに合わせて微調整のうえ、調査や検討をお願いするようにしている。			

協働事業名	まちの「つながり」プロジェクト 講演&トークセッション	所管部課名	都市整備部 住宅課
事務事業名	空き家等対策事業	電話番号	042-481-7817
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
空き家を活かし、まちを元気にするための「担い手」やまちづくりに参加する方の増やし方について、自ら実践に関わっている方や、地域住民の目線に近い立場にいる方をゲスト講師に招き、講演及びトークセッションを4回行った。			
協働のパートナー	共立女子大学、SUGAWARADAISUKE建築事務所株式会社、調布市空き家等対策推進協議会、社会福祉法人調布市社会福祉協議会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 都市整備
			関連施策※ 23良好な住環境づくり
役割分担	パートナーの役割	事例紹介、提案コンセプトの可能性検討協議及び研究	
	市の役割	空き家対策における利活用可能性検討	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 令和2年度からの3箇年事業である。空き家を活かしたまちづくりの実践例を学ぶ機会として、トークイベントを4回実施した。		
	協働したことによる成果		
自ら実践に関わっている方や、地域住民の目線に近い立場にいる方をゲストをお招きし講演及びトークセッションを行うことで、空き家問題をより身近な問題として考える機会の提供だけでなく、空き家を活かしたまちづくりの実践方法について紹介することができた。			
協働に当たった課題と対応			
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、すべてオンライン配信となった。空き家問題を自分事として捉えて考えていただくため、より身近なテーマで継続的に発信していく必要がある。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	スマイのミライセミナー・個別相談会	所管部課名	都市整備部 住宅課
事務事業名	空き家等対策事業	電話番号	042-481-7817
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
空き家所有者へ「調布市空き家所有者意向調査」を実施したところ、相談を希望する所有者が多くいらしたこと、また、令和2年10月に設置した調布市空き家ワンストップ相談窓口の認知度が低かったことを踏まえ、市と協定を結んでいる6事業者が一堂に会し個別相談会を実施した。なお、セミナーは新型コロナウイルス感染拡大の影響により中止とした。			
協働のパートナー	調布市空き家ワンストップ相談窓口事業者 (日本地主家主協会、東京都建築士事務所協会(南部支部)、東京都行政書士会 調布支部、ミサワホーム、三井住友信託銀行、多摩信用金庫)	事業提案者	市
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	都市整備
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	23良好な住環境づくり
役割分担	パートナーの役割	空き家の解消促進、課題解決	
	市の役割	空き家の解消、適正管理の啓発	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業 令和2年10月に設置した「調布市空き家ワンストップ相談窓口」の周知及び空き家所有者の方へ相談する機会を提供するため実施した。		
協働したことによる成果			
市と各事業者が連携して開催することにより、ワンストップ相談窓口を周知することができた。また、6事業者が一堂に会することで、複数の事業者へ相談することができ、より自分に合った提案をした事業者と継続した相談へ繋ぐことができ、相談のきっかけの場を提供することができた。			
協働に当たっての課題と対応			
6事業者と定期的な打合せを行うことで円滑な連携が取れ、スムーズに個別相談会を進めることができた。今後は、令和5年度からのワンストップ相談窓口本格稼働を見据え、より認知度を高めていく必要がある。また、今回ご参加いただいた方のアフターフォローや参加できなかった方等へのフォローについても6事業者と連携しながら行い、空き家の適正管理に繋げていく。			

協働事業名	～15年後の我が家へ～住まいのフォトレーター展	所管部課名	都市整備部 住宅課
事務事業名	空き家等対策事業	電話番号	042-481-7817
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
本事業は、晃華学園中学校高等学校及び共立女子大学の学生の皆さんが主体となって実施した。幅広い世代の方に空き家について知っていただくため、「～15年後の我が家へ～住まいのフォトレーター展」と題し、思い入れのある自宅の写真と15年後の我が家へ宛てたメッセージを募集した。			
協働のパートナー	晃華学園中学校高等学校、共立女子大学他	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	都市整備
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	23良好な住環境づくり
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・提案・広報	
	市の役割	事業の企画・広報	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業 これまで空き家対策事業に協力いただいている各学校と連携し学生主体で実施した。		
協働したことによる成果			
「調布市スマイのミライ教えてナビ!」を使用しての取組であったため、SNSを得意とする学生の皆さんと連携することにより、若い視点での企画で進めることができた。また、「思い入れのある自宅の写真とメッセージの募集」という内容であったため、幅広い世代の方にご参加いただくことができ、LINE登録者数を増やすことができた。			
協働に当たっての課題と対応			
新型コロナウイルス感染拡大の影響により、すべてオンラインでの打合せとなった。当初企画内容がなかなか決まらなかったが、決定後はそれぞれが自身の担当をスケジュール通りに滞りなく進め、多くの方に参加していただける企画となった。若い視点での企画・提案はとて有意義なものであるため、今後も連携しながら空き家等対策事業に取り組む。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	調布市ふれあいのみちづくり事業	所管部課名	都市整備部 道路管理課
事務事業名	道路維持管理事務	電話番号	042-481-7405
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市民が協働して市道、水路、けい畔、その他特定の公共空間の維持管理を行う活動であり、市内の町内会、自治会、学校等の市民団体が清掃活動を行い、市は団体に用具類等の無償貸与を行った。住民が主体的に清掃活動を行うことで、市道等の適正な維持はもとより、地域全体の環境美化の向上と地域コミュニティの活性化にも寄与している。			
協働のパートナー	大町自治会ほか17団体		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 道路管理
	関連施策※ 24安全で快適なみちづくり		
役割分担	パートナーの役割	市道等の維持管理活動（市道等の除草、清掃、除雪、及び市道等の状況に係る通報に関する活動）の実施	
	市の役割	活動支援（清掃用具等の支給、ボランティア保険の加入）	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 事業の立ち上げ以来、市民団体と市との連携により継続的に実施している。また、アンケート等の実施により効果的な取組を検討・実施している。		
協働したことによる成果			
各パートナーが地域の実情に応じて主体的に活動を行った。市道の適正な維持及び地域全体の環境美化の向上と地域コミュニティの活性化に寄与した。			
協働に当たっての課題と対応			
高齢化等により参加人数が減少している団体がある。今後、積極的に広報活動を行い、参加団体の拡大に努める。			

協働事業名	T Sマーク付帯保険加入促進事業	所管部課名	都市整備部 交通対策課
事務事業名	T Sマーク付帯保険加入促進事業	電話番号	042-481-7454
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
令和2年4月1日から都条例が改正されたことにより、自転車保険への加入が義務化となった。市はこの改正を受け、多くの市民に自転車点検・整備の重要性や自転車保険義務化を周知することを目的として、自転車保険の1つである「T Sマーク付帯保険」の加入費用の一部を助成券配布方式で助成することとした。 なお、当保険加入に必要な自転車整備は、店舗での対応を要するため、市内に点在する「自転車商協同組合調布支部」の組合員（各店舗）に來客対応、助成券取りまとめ、実績報告を業務委託している。			
協働のパートナー	東京都自転車商協同組合 調布支部		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 交通安全
	関連施策※ 25総合的な交通環境の整備		
役割分担	パートナーの役割	広報、店舗対応、市へ実績報告	
	市の役割	事業企画、運営、広報	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 令和2年4月1日から自転車保険への加入が義務化となったことを受け、多くの市民へ自転車点検・整備の重要性や自転車保険義務化を周知することを目的として本事業を継続実施している。		
協働したことによる成果			
当事業に参加した多くの市民に自転車点検・整備の重要性や自転車保険義務化を周知した。			
協働に当たっての課題と対応			
新型コロナウイルス感染拡大の影響によりT Sマーク付帯保険助成券の配布時期が予定より遅れた。今後は自転車利用が多い時期に助成券の配布を検討する。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	北部地域巡回公共交通（実証実験）事業		所管部課名	都市整備部 交通対策課
事務事業名	ミニバスの運行		電話番号	042-481-7454
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
ミニバス北路線（調37系統）の減便に伴い、影響を受けた高齢者等の移手段として深大寺北町、深大寺東町を中心とした北部地域の交通ニーズの把握に向けて巡回公共交通の実証実験を実施するもの。 ルート案や乗降場所等を定めるに当たり、地域の方々と意見交換、対象地域にアンケート調査をしたほか、公共交通活性化協議会に報告した。				
協働のパートナー	北ノ台まちづくりネットワーク・ふじみ地区自治会等連合会・北部地区まちづくり推進準備会のほか、深大寺北町、深大寺東町の市民		事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	都市整備
			関連施策※	25総合的な交通環境の整備
役割分担	パートナーの役割	広報・周知のほか、市への助言等		
	市の役割	事業の企画・運営		
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業 ミニバス北路線（調37）の減便に伴い、減便となった沿線地域の自治会等から、バスの便数を元に戻すのではなく、通院や買物等のために、クリニック、スーパー等を巡回する公共交通を検討してほしいとの要望が市に寄せられたことから、地域課題に応じた公共交通の導入に向けた検討をするため着手したもの。			
協働したことによる成果				
アンケート調査を実施することを所属する自治会の会員に声掛けしていただいたこと、バス停の候補地となる場所の地権者と調整していただいたこと、ルート案や運行概要等に対して助言いただく等により、新型コロナウイルス感染症が拡大していた中、円滑に準備を進めることができた。				
協働に当たった課題と対応				
検討事項の素案が完成次第、報告するなど、定期的に意見交換した。 一方、関係団体が一堂に集まって、意見交換する場が中々設けられていないことが課題であり、今後新型コロナウイルス感染拡大防止対策をしたうえで新たな方法で意見交換をしていく。				

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

教育部

令和3年度 協働事業一覧

No.	協働事業名	協働の形態	パートナー	所管課
99	学校開放事業	情報交換・情報提供, 指定管理・業務委託	学校開放運営委員会	社会教育課
100	調布市成人式	実行委員会	成人式実行委員会	社会教育課
101	障害者社会活動支援事業	事業協力, 指定管理・業務委託	調布のびのびサークル	社会教育課
102	学習グループの活動	補助・助成	学習グループサポート事業登録グループ(コミュニケーション学習会 SMILE, たんぼぼの会, CCD, 子育てネット kono kono, 歴史サークル芝蘭, 教育フォーラム・のどらか, つむぐ)	社会教育課
103	リーダー養成講習会	指定管理・業務委託	調布市レクリエーション研究会	社会教育課
104	調布市公立学校PTA連合会の活動	実行委員会, 事業協力, 補助・助成	調布市公立学校PTA連合会	社会教育課
105	こどもの緊急避難場所提供	事業協力, 情報交換・情報提供	市内小学校PTA校外委員及び健全育成委員, 協定締結機関	社会教育課
106	社会教育関係団体の活動	事業協力, 補助, 助成	社会教育関係登録団体(アカデミー愛とびあ, 調布市公民館・文化会館 たづくり利用者会議, 調布さくらウインドオーケストラ, 調布フィリングアーツ, 調布フィルハーモニー管弦楽団, ぶちぶち, 調布市青少年吹奏楽団, 混声合唱団 七福神, ジャズ・ボーカル・ドリーム)	社会教育課
107	地域文化祭	実行委員会	東部地域文化祭実行委員会 西部地域文化祭実行委員会 北部地域文化祭実行委員会	東部公民館 西部公民館 北部公民館
108	「日本史を学ぶ会」公開講座	共催	日本史を学ぶ会	東部公民館
109	地域連携事業「桐朋女子中・高等学校」	共催, 事業協力	桐朋女子中・高等学校	東部公民館
110	体験教室「弾けたらうれしいウクレレ」	共催	ノアレア (西部公民館利用登録団体)	西部公民館
111	体験教室「一度やってみよう太極拳」	共催	西部慢慢児の会 (西部公民館利用登録団体)	西部公民館

No.	協働事業名	協働の形態	パートナー	所管課
112	「小倉百人一首の世界 歌と歌人とその時代」	共催	小倉百人一首を楽しむ会 (西部公民館利用登録団体)	西部公民館
113	『知りたい』が未来をつくる!『科学道100冊』図書展	事業協力	科学道100冊委員会	北部公民館
114	北の杜講座「みんなで踊ろう盆踊り体験～東京音頭, 調布温度など」	共催	上ノ原まちづくりの会(地区協議会)	北部公民館
115	読書啓発事業	共催	アカデミー愛とびあ	図書館
116	図書館の利用支援	事業協力	図書館に登録している音訳者・点訳者・布の絵本製作者・宅配協力員	図書館
117	地域文化講演会「史料に見る調布の用水と水車」	共催	調布史談会	郷土博物館

協働事業名	学校開放事業	所管部課名	教育部 社会教育課
事務事業名	学校施設の開放による市民のスポーツ活動支援	電話番号	042-481-7488
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
学校開放事業は、市民の生涯学習意欲を高め、心身の健全な発達に寄与することを目的に、一般開放及び総合開放の2つの事業形態で学校施設を開放している。このうち総合開放は、地域住民を中心に組織された開放運営委員会に学校施設開放の管理運営、地域運動会の実施、夏季休業期間におけるプール開放の実施等を委託している。また、各開放運営委員会との情報交換の場として、総合開放運営連絡会を実施している。			
協働のパートナー	学校開放運営委員会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 スポーツ
	関連施策※		14市民スポーツの振興
役割分担	パートナーの役割	年間の事業計画と事業実施、開放施設の管理運営	
	市の役割	各開放運営委員会との情報交換、総合開放運営連絡会の実施	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 総合開放運営連絡会をオンライン会議にて開催し、各開放運営委員会との連携を図った。		
協働したことによる成果			
地域住民を中心に組織された開放運営委員会に学校開放事業を委託をすることで、学校と地域の連携が図られるとともに、地域コミュニティの形成に寄与することができた。			
協働に当たっての課題と対応			
学校開放における運営委託費について、引き続き、公費であることを踏まえた適切な執行の周知・徹底を図っていく。また、安全面の観点から、地域運動会などの運営委員会が実施する事業では、傷害保険及び賠償責任保険の加入を徹底する。			

協働事業名	調布市成人式	所管部課名	教育部 社会教育課
事務事業名	成人式の運営	電話番号	042-481-7488
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
二十歳前後の若者からなる成人式実行委員会を組織し、若者のアイデアを積極的に取り入れた成人式を実施した。実行委員については、市報や市ホームページで募集しているほか、市内の大学等からの推薦により決定している。			
協働のパートナー	成人式実行委員会 (市報応募者、白百合女子大学学生、アフラック社員)		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 生涯学習
	関連施策※		13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	二十歳前後の若者で構成する実行委員会が令和4年調布市成人式情報誌の作成や当日の運営等を行う。	
	市の役割	成人式の運営及び成人式実行委員会の補助を行う。	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 より良い成人式を企画するために、協働による取組を推進する必要がある。		
協働したことによる成果			
令和4年調布市成人式情報誌は、市内対象者全員に郵送で送付し、ユニークなデザインや内容が好評となっている。また、成人式当日は、司会や運営の補助を通して、若者の活躍の機会を創出できた。			
協働に当たっての課題と対応			
例年、実行委員の公募が少ないことが課題となっている。市報や市ホームページ、ツイッターなどでの募集の他、効果のある周知方法を検討していく。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	障害者社会活動支援事業	所管部課名	教育部 社会教育課
事務事業名	のびのびサークル事業の推進	電話番号	042-481-7488
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
のびのびサークルは、特別支援学級及び特別支援学校の在籍者・卒業生を対象に、ダンスやゲームなどのレクリエーション活動を月2回程度実施している。			
協働のパートナー	調布のびのびサークル		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 障害者福祉
			関連施策※ O6青少年の健全育成
役割分担	パートナーの役割	年間を通じた事業運営	
	市の役割	会場予約や広報等	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 パートナーと連携して事業を行うことで、ノウハウや参加率等の面で効果的な事業運営が行えている。		
協働したことによる成果			
のびのびサークルは長期間にわたり当該事業の運営を行ってきたことから、参加者の個々の個性に合わせた、配慮のある事業運営を行っている。			
協働に当たっての課題と対応			
サークルの高齢化・人手不足や、市とサークルの役割分担について、引き続き、検討を進める必要がある。			

協働事業名	学習グループの活動	所管部課名	教育部 社会教育課
事務事業名	学習グループの支援	電話番号	042-481-7490
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市民が自主的に学習活動を行う団体を「学習グループ」として登録し、市が公開講座の講師謝礼助成や学習活動時の保育者謝礼助成などの費用の補助、市報や市ホームページへの掲載による広報活動の補助、年次活動記録製本の補助などを通して、各グループが学習の成果を地域社会に還元するための支援をしている。グループ登録は一年ごとに行い、毎年5月から翌年3月末までをサポート期間とする。			
協働のパートナー	コミュニケーション学習会SMILE、たんぼぼの会、CCD、子育てネットkono kono、歴史サークル芝蘭、教育フォーラム・のどらか、つむぐ		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 生涯学習
			関連施策※ 13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	各学習テーマに沿った学習会の企画、運営、実施報告。講師の選定やチラシの準備を含む。	
	市の役割	講師、保育者及び手話通訳者への謝礼を支払う。市報掲載依頼やホームページ作成を行う。	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 平成7年度に中央公民館の成人学級を社会教育課で引き継ぎ、その後平成14年度に現在の事業名称と事業内容に改め、団体が入れ替わりながら現在まで継続している。		
協働したことによる成果			
令和3年度は7グループが登録し、公開講座講師謝礼9件を助成した。生涯学習の機会の提供だけでなく、保育を伴う学習活動の中で地域コミュニティとしての役割も果たしている。広報活動においては、任意のタイミングで情報発信できる市ホームページの利点を活かし、急ぎょ開催中止が決まった公開講座の案内にも対応できた。			
協働に当たっての課題と対応			
今後の課題として、今以上にグループ同士の情報共有を図りたいとの意見が一部の参加者から出ていることから、年次活動報告の活用方法や年一回の事業説明会について、各団体の意見を聞いて次年度以降の進め方を検討する。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	リーダー養成講習会	所管部課名	教育部 社会教育課
事務事業名	リーダー養成講習会の実施	電話番号	042-481-7488
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
青少年の健全育成を図るとともに、地域で活躍できる人材の養成を図ることを目的に、中学生対象のジュニアリーダー講習会、高校生対象のシニアリーダー講習会、高校生以上対象のレクリエーション講習会を実施。各講習会の企画・運営を地域団体である調布市レクリエーション研究会が行っている。			
協働のパートナー	調布市レクリエーション研究会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input checked="" type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 子ども
			関連施策※ 06青少年の健全育成
役割分担	パートナーの役割	各講習会の企画・運営	
	市の役割	各講習会の会場予約、広報等	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 昨年度実施した内容を振り返りながら、季節のイベント等、時期に合せた内容を実施している。		
協働したことによる成果			
一部の講習会は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から中止としたが、ゲームや野外活動について熟知しているパートナーと協働することで、多彩な内容の講習会を実施することができ、各講習会の受講生も楽しみながら、リーダーシップを身に付けることができた。			
協働に当たっての課題と対応			
各講習会の参加者数が年々減少しており、広報活動や運営方法について、引き続きパートナーと検討を進める必要がある。			

協働事業名	調布市公立学校PTA連合会の活動	所管部課名	教育部 社会教育課
事務事業名	調布市公立学校PTA連合会の支援	電話番号	042-481-7490
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市内公立学校20校の単体PTAの合議体である。調布市公立学校PTA連合会では、毎年12月に開催する教育懇親会で、教育に関するテーマでディスカッションをするほか、進学フェアの実施、各校の施設改善要望をとりまとめて市に要望するなどしている。市は、補助金を交付するほか、他機関との連絡調整を担っている。			
協働のパートナー	調布市公立学校PTA連合会		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 社会教育
			関連施策※ 05学校教育の充実
役割分担	パートナーの役割	地域の課題に即した事業の展開	
	市の役割	補助金を交付する。進学フェアの市報掲載依頼やホームページ作成を行う。	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 パートナーと連携を図ることにより、地域のニーズに合った事業を展開することができた。		
協働したことによる成果			
体育事業や進学フェアなど、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から対面での開催が中止となった事業もあったが、オンライン併用で開催した教育懇談会や施設改善要望のとりまとめ等、調布市公立学校PTA連合会と協働することにより、地域のニーズに合った事業を展開することができた。			
協働に当たっての課題と対応			
進学フェア、教育懇談会などコロナ禍において、書面及びオンライン開催となった事業が、平常時の形式（対面）で開催できるよう連絡調整を行っていく。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	こどもの緊急避難場所提供	所管部課名	教育部 社会教育課
事務事業名	こどもの家の充実	電話番号	042-481-7488
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
子どもたちの登下校中や放課後の安全を地域全体で見守るために、有事の際の緊急避難場所を提供する目的で、平成12年に八雲台小学校PTAの校外活動として始まった。現在は市内小学校20校のPTA校外委員や健全育成委員の自主的な活動として継続しているほか、調布市医師会やコンビニエンスストア防犯協会等の9団体と協定を締結し、御協力いただいている。社会教育課は活動の広報、名簿のとりまとめのほか、目印となるプレート等の作成、登録者全体の傷害保険の加入など費用面の負担をしている。			
協働のパートナー	市内小学校PTA校外委員及び健全育成委員、協定締結機関	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	子ども
	<input checked="" type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	05学校教育の充実
役割分担	パートナーの役割	担当区域内の登録・削除等の受付と、社会教育課への報告	
	市の役割	報告に基づく名簿の更新と、プレート作成、傷害保険加入	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業	平成12年に八雲台小学校PTAの校外活動として始まり、現在は市内公立小学校全20校と、協定締結機関9団体、市関連施設などと連携して事業を継続している。	
協働したことによる成果			
学区の現状を知る校外委員等と連携し、名簿上の登録のみでプレートの掲示がない家などに通知を送り、一定期間の猶予を経たのち一括削除を行うなど、現状に則した名簿となるよう運営できた。			
協働に当たっての課題と対応			
より実効性のある名簿とするため、今後も校外委員等が校区単位での名簿管理・活用を勧め、当課は新規登録者増を目的とした広報やサポートを担うという分業を行っていく。			

協働事業名	社会教育関係団体の活動	所管部課名	教育部 社会教育課
事務事業名	社会教育関係団体の支援	電話番号	042-481-7488
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
社会教育関係登録団体の行う公開講座、展示会、発表会等の社会教育振興に寄与する事業に補助金を交付し、市民の自主的な社会教育活動を促進し、市の社会教育の発展を図る。			
協働のパートナー	社会教育関係登録団体のうち交付申請を行った9団体	事業提案者	市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input checked="" type="checkbox"/> 補助・助成	分野	生涯学習
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	事業の実施	
	市の役割	補助金の交付、事業の広報活動の支援	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業	平成29年4月1日に調布市社会教育関係登録団体活動事業補助金交付要綱を制定して以来、社会教育関係登録団体を対象に補助金を交付している。	
協働したことによる成果			
補助金の交付及び広報活動の支援により各申請団体内の日ごろの学習・練習の成果や自己実現の場を提供できた。			
協働に当たっての課題と対応			
社会教育関係団体の多様な活動の機会をサポートすることで、共同学習・相互学習を推進し、活動の成果を地域還元するため、補助金交付団体が活動の成果を発表する際には市報やホームページを活用し、広く市民に周知を図り、市の社会教育の更なる発展につなげていく。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	地域文化祭	所管部課名 (電話番号)	教育部 東部公民館 (03-3309-4505)
事務事業名	地域文化祭の実施		教育部 西部公民館 (042-484-2531)
事業の概要 (協働を行った事業の説明と協働の方法など)			教育部 北部公民館 (042-488-2698)
地域文化祭は、公民館利用団体の代表者で構成された実行委員会が主体となり運営し、調布市民文化祭の開催中の10月～11月の8日間、開催している。地域文化祭は、サークルや団体の学習成果発表の場を設け、多くの市民の方に観覧や体験をしてもらうなど、誰もが学習への参加が出来る機会を周知することを目的としている。実行委員会は、団体間の交流の場となり、成果発表の場は、地域住民との交流にもつながっている。			
協働のパートナー	東部地域文化祭実行委員会、西部地域文化祭実行委員会、北部地域文化祭実行委員会		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input checked="" type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 生涯学習
			関連施策※ 13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	実行委員会の運営、事業の企画・運営・参加・広報活動	
	市の役割	会場提供・設営、実行委員会資料協力・情報提供、広報活動・受付事務、事業費の助成	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 毎年、各公民館の利用団体から輪番制で役員を選出し、館ごとに実行委員会を構成し、それぞれ館の特色を活かした地域文化祭を開催している。		
協働したことによる成果			
公民館を利用しているサークル・団体と地域の方の参加や協力を得ながら開催することができた。また、各公民館が地域の実情に合わせ、地区協議会、近隣小・中・高等学校等地域の関係団体も参加し、地域との交流の場となることができた。さらには、実行委員会形式で実施したことにより、各サークルの主体性を活かした事業展開ができた。			
協働に当たっての課題と対応			
コロナ禍の施設使用制限の状況等を踏まえながら、文化祭の規模や実施内容などについて実行委員会と協議を重ねる必要がある。実行委員会の役員は、輪番制により選出されるため継続性がないこともあり、公民館からのサポート（資料作成、助言、相談など）が必要となっている。今後は、実行委員会が自主的に運営できるようにつなげていきたい。また、実行委員会の運営に関して負担感を感じている方も増えている。実行委員会の効率的な運営が必要。			

協働事業名	「日本史を学ぶ会」公開講座	所管部課名	教育部 東部公民館
事務事業名	地域に根差した公民館活動の推進	電話番号	03-3309-4505
事業の概要 (協働を行った事業の説明と協働の方法など)			
東部公民館登録団体である日本史を学ぶ会の例会を公開し、学習内容やその成果を地域に還元していく。また、参加者を一般公募することにより、会員数の増加につなげていけるよう支援を継続する。講座内容や講師の選定などは、日本史を学ぶ会が行う。公民館は、会場提供（会場設営を含む）、広報（市報、公民館だより、市ホームページ、チラシ・ポスター）、募集、受付などの支援を行う。			
協働のパートナー	日本史を学ぶ会（東部公民館登録団体）		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 生涯学習
			関連施策※ 13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・運営、広報、参加者募集	
	市の役割	会場提供・広報・情報提供	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 公民館登録団体の活動内容を公開し、学習内容や成果を地域に還元するとともに、会員獲得を目指す。		
協働したことによる成果			
東部公民館の登録団体である日本史を学ぶ会と共催で公開講座を開催することで、学習内容や成果を地域に還元することができた。また、参加者を一般公募することで会員獲得につながる支援ができた。			
協働に当たっての課題と対応			
会員の減少は登録団体の継続や存続に関わる問題であるため、引き続き参加者を一般公募することで、会員増につなげていけるよう支援を継続していく必要がある。公開講座の講師選定や内容など、企画段階から日本史を学ぶ会の意向を踏まえながら、計画的に実施していく必要がある。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	地域連携事業「桐朋女子中・高等学校」	所管部課名	教育部 東部公民館
事務事業名	地域に根差した公民館活動の推進	電話番号	03-3309-4505
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
東部公民館と桐朋女子中・高等学校が連携して、講座、教室、展示を企画実施し、近隣学校との交流促進を図るとともにその成果を地域に還元していく。小学生を対象に桐朋女子中・高等学校ダンス部の高校2年生が講師となり、「桐朋生が教える今ドキDANCE（ダンス）」を実施したほか、桐朋女子・自然科学部生物班&作文コンクール「桐華賞」作品展や桐朋女子・自然科学部天文班の展示を行った。			
協働のパートナー	桐朋女子中・高等学校	事業提案者	市
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	生涯学習
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	講師、展示協力	
	市の役割	事業の企画・運営、参加者募集、会場提供、広報	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業	桐朋女子中・高等学校の生徒と公民館職員の地域団体の取材を通じた交流を契機に、桐朋女子中・高等学校との協働、連携関係を維持、向上している。	
協働したことによる成果			
桐朋女子中・高等学校と連携して公民館事業を企画実施することで、近隣学校との交流の促進とともに公民館の利用が少ない若年層の利用向上につなげることができた。			
協働に当たっての課題と対応			
桐朋女子中・高等学校は、東部公民館に隣接した学校であり、講座、教室、展示など公民館主催事業のほか、地域文化祭の交流企画など様々な場面で連携し事業を展開していきたい。事業の企画実施に当たっては、今後も桐朋女子中・高等学校の講師と協議し、若年層の利用促進や地域課題を題材にした事業展開に努めていきたい。			

協働事業名	体験教室「弾けたらうれしいウクレレ」	所管部課名	教育部 西部公民館
事務事業名	多様な公民館事業の推進	電話番号	042-484-2531
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
西部公民館登録団体である「ノアレア」の例会を公開し、学習内容やその成果を地域に還元していく。公民館は、会場提供（会場設営を含む）、広報（市報、公民館だより、市ホームページ、チラシ・ポスター）、募集、受付などの支援を行う。講座内容は「ノアレア」が企画し、会員増につなげていけるよう支援を継続する。			
協働のパートナー	ノアレア（西部公民館利用登録団体）	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	生涯学習
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・運営、広報、参加者募集	
	市の役割	会場提供・広報・情報提供	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業	西部公民館の登録団体「ノアレア」の学習内容や成果を地域に還元し、会員増につなげる事業として実施。	
協働したことによる成果			
西部公民館の登録団体である「ノアレア」と共催で公開講座を開催することで、学習内容や成果を地域に還元することができた。また、受講者を一般公募することで団体の会員増につながる支援ができた。			
協働に当たっての課題と対応			
会員減少は登録団体の存続に関わる問題であるため、引き続き体験教室を共催し、受講者を一般公募することで、団体の会員増につなげていけるよう支援を継続していく必要がある。公開講座の内容など企画段階から「ノアレア」の意向を踏まえながら、計画的に実施していく必要がある。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	体験教室「一度やってみたい太極拳」	所管部課名	教育部 西部公民館
事務事業名	多様な公民館事業の推進	電話番号	042-484-2531
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
西部公民館登録団体である「西部慢慢児の会」の例会を公開し、学習内容やその成果を地域に還元していく。公民館は、会場提供（会場設営を含む）、広報（市報、公民館だより、市ホームページ、チラシ・ポスター）、募集、受付などの支援を行う。講座内容は「西部慢慢児の会」が企画し、会員増につなげていけるよう支援を継続する。			
協働のパートナー	西部慢慢児の会（西部公民館利用登録団体）	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	生涯学習
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・運営、広報、参加者募集	
	市の役割	会場提供・広報・情報提供	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業	西部公民館の登録団体「西部慢慢児の会」の学習内容や成果を地域に還元し、会員増につなげる事業として実施。	
協働したことによる成果			
西部公民館の登録団体である「西部慢慢児の会」と共催で公開講座を開催することで、学習内容や成果を地域に還元することができた。また、受講者を一般公募することで会員増につながる支援ができた。			
協働に当たっての課題と対応			
会員減少は登録団体の存続に関わる問題であるため、引き続き体験教室を共催し、受講者を一般公募することで、会員増につなげていけるよう支援を継続していく必要がある。公開講座の内容など企画段階から「西部慢慢児の会」の意向を踏まえながら、計画的に実施していく必要がある。			

協働事業名	小倉百人一首の世界 歌と歌人とその時代	所管部課名	教育部 西部公民館
事務事業名	多様な公民館事業の推進	電話番号	042-484-2531
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
西部公民館登録団体である「小倉百人一首を楽しむ会」の例会を公開し、学習内容やその成果を地域に還元していく。公民館は、会場提供（会場設営を含む）、広報（市報、公民館だより、市ホームページ、チラシ・ポスター）、募集、受付などの支援を行う。講座内容は「小倉百人一首を楽しむ会」が企画し、会員増につなげていけるよう支援を継続する。			
協働のパートナー	小倉百人一首を楽しむ会（西部公民館利用登録団体）	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	生涯学習
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・運営、広報、参加者募集	
	市の役割	会場提供・広報・情報提供	
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業	西部公民館の登録団体「小倉百人一首を楽しむ会」の学習内容や成果を地域に還元し、会員増につなげる事業として実施。	
協働したことによる成果			
西部公民館の登録団体である「小倉百人一首を楽しむ会」と共催で公開講座を開催することで、学習内容や成果を地域に還元することができた。また、受講者を一般公募することで会員増につながる支援ができた。			
協働に当たっての課題と対応			
会員減少は登録団体の存続に関わる問題であるため、引き続き体験教室を共催し、受講者を一般公募することで、会員増につなげていけるよう支援を継続していく必要がある。公開講座の内容など企画段階から「小倉百人一首を楽しむ会」の意向を踏まえながら、計画的に実施していく必要がある。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	『知りたい』が未来をつくる『科学道100冊』図書展	所管部課名	教育部 北部公民館	
事務事業名	地域に根差した公民館活動の推進	電話番号	042-488-2698	
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
科学道100冊委員会（国立研究開発法人理化学研究所、編集工学研究所）が、「知りたいが未来をつくる科学道100冊」をテーマに、書籍を通じた科学者の生き方・考え方や科学のおもしろさ・素晴らしさを届けられる本との出会いを目指して選定したリストの本を図書館に揃えてもらい、各テーマに沿って展示した。また、この展示月を“北の杜科学月間”と題し、未就学児を対象とした「かがくのおはなし会」（図書館協力）、小学生を対象とした「子ども科学教室」を同時期に実施し、科学に触れるきっかけづくりとした。				
協働のパートナー	科学道100冊委員会		事業提案者	市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	生涯学習
			関連施策※	13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	事業の企画		
	市の役割	事業の運営・会場提供・広報・情報提供		
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 毎年度、子ども科学教室を複数回実施しており、科学への親しみ・関心づくりなどには特に力を入れていることから、継続して実施していくことで科学への興味のきっかけづくりのひとつとしていきたい。			
協働したことによる成果				
実際に科学に携わる人たちの視点で選ばれた本は多角的なテーマであった。気になった本はその場で読むことができ、また殆どの本が図書館で借りることもできる（書籍・図解・マンガなど）。本の形式にとらわれず広義のテーマごとにまとめられ、見たことのある本、新しい視点で書かれた本と会うことができる機会である。今年度も、図書館司書が選んだ科学の児童書も併せて展示し、おはなし会や同時期に開催した科学教室に参加した子供たちも閲覧していた。昨年度に引き続き来館された市民や初めて公民館に来館した親子もあり、身近な施設を知ってもらうこともできた。				
協働に当たっての課題と対応				
専門家の視点からの選定・企画であり、新しいフィールド・市民層にアピールできる事業ができることから、今後も連携して行っていきたい。				

協働事業名	北の杜講座「みんなで踊ろう盆踊り体験～東京音頭、調布音頭など」	所管部課名	教育部 北部公民館	
事務事業名	地域に根差した公民館活動の推進	電話番号	042-488-2698	
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）				
地域で活動している「上ノ原まちづくりの会（地区協議会）」は地域の方々の「ふれあい」と、よりよい「まちづくり」を目指して活動している団体である。例年、上ノ原地区盆踊り実行委員会が盆踊り大会を実施しているがコロナ禍で昨年度は中止、今年度も開催困難な状況であったことから、まちづくりの会からの相談を受けて、地域住民との交流と健康増進を図るため実施した。まちづくりの会は、企画、当日の設営（上ノ原小学校から提灯を借用し会場に飾りつけをし、風船やヨーヨーなどでまつりの雰囲気演出）、運営（太鼓演奏、踊り指導、感染症対策など）と広報を行い、公民館は、会場提供（会場設営補助を含む）、広報（市報、公民館だより、市ホームページ、チラシなど）、募集、受付などの支援を行った。				
協働のパートナー	上ノ原まちづくりの会（地区協議会）		事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野	生涯学習
			関連施策※	13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	事業の企画・運営、広報、参加者募集		
	市の役割	会場提供、広報、参加者募集		
新規・継続の別	<input checked="" type="checkbox"/> 新規事業 <input type="checkbox"/> 継続事業 地域からの相談を受けて新規事業として開催した。市民が相談がしやすい・市民から相談してもらえる身近にある行政施設として、今後も地域協同を進めていく。			
協働したことによる成果				
盆踊り大会は「輪になって踊ろう・みんなで踊ろう」と昔から地域のふれあいや住民交流の一つとして親しまれてきていた。コロナ禍でこれらの事業の中止などが相次ぎ住民交流の機会が少なくなってしまっていたが、今回の参加者からは人とのつながりの楽しさを再確認できたなどの感想を受け、次年度以降も地域交流のため実施を検討する話もできており、地域と協働して進められる事業がさらに増えた。				
協働に当たっての課題と対応				
コロナ禍という制限の中、感染症対策を徹底しマスク着用で行った。1回2時間以上の事業（昼夜2回実施）なので参加者の体調等にも配慮して実施した。				

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	読書啓発事業	所管部課名	教育部 図書館
事務事業名	成人利用者の読書活動の推進	電話番号	042-441-6181
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
市民の読書活動を支援し、集会・行事活動を促進するため、時事問題や文学に関する講演会や読書会、公開講座、作品展示等の読書啓発事業を企画、一部実施した。			
協働のパートナー	アカデミー愛とびあ		事業提案者 パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 生涯学習
			関連施策※ 13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	企画・立案、講師の手配、事業運営	
	市の役割	会場確保、講師謝礼支払い、広報活動、事業運営、企画・立案	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 連携して事業を行うことで、幅広い年齢層への対応等、効果的な事業運営が行えている。		
協働したことによる成果			
広く市民に広報でき、多くの方に来場いただけた。市民の多様な集会・行事活動を実現することができた。			
協働に当たった課題と対応			
例年開催している講演会や公開読書会は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日程変更や中止、定員を減らしての実施となった。「アカデミー愛とびあ」の会員の高齢化が進んでおり、図書館としてどのように協働していくかを検討する。			

協働事業名	図書館の利用支援	所管部課名	教育部 図書館
事務事業名	図書館の利用支援	電話番号	042-441-6181
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
文字情報を得るのに障害のある市民への情報保障を目的として、音訳・点訳・布の絵本製作・提供等の利用支援を行った。これらの実施に当たっては、音訳者・点訳者・布の絵本製作者等各種養成講座を修了した市民の協力を得て事業を進めた。また、図書館への来館が困難な市民への図書館資料の宅配サービスを、市民協力員の協力を得て実施した。			
協働のパートナー	図書館に登録している音訳者・点訳者・布の絵本製作者・宅配協力員		事業提案者 市
協働事業の形態	<input type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input checked="" type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成 <input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託		分野 生涯学習
			関連施策※ 09障害者福祉の充実 13生涯学習のまちづくり
役割分担	パートナーの役割	音訳、点訳、布の絵本製作及び図書宅配	
	市の役割	リクエスト受付、資料収集、資料製作、資料貸出、協力者の養成	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 引き続き、各種協力員の協力を得ながら、必要な情報が行き届くよう実施していく。		
協働したことによる成果			
多くの市民の参加と協力を得て、市民が図書館事業の理解を深める機会ともなり、市民としてもやりがいを持つことができた。また、それぞれの市民が持つ専門性を活用でき、図書館業務の効率化にもつながった。			
協働に当たった課題と対応			
各種資料の製作には専門的な技術を必要とし、新しい技術を習得するために資料製作者は常に研鑽を積む必要がある。そのため図書館は協力者に必要な講座を継続的に実施している。令和3年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、音訳者・布の絵本製作者のための講座は中止とした。点訳については、協力者の減少が顕著であるため、令和2年度末から3年度にかけて新規の協力者養成のための初級講座を開催した。各種製作者のグループ活動は感染状況を見ながら開催した。引き続き養成・研修の場を提供し、新しい技術を取り入れた環境を整備するなど、指導者の確保や予算の獲得に努めたい。また、宅配協力員も含めて、協力者の減少が課題となっているため、広く事業のPRに努めたい。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

協働事業名	地域文化講演会「史料に見る調布の用水と水車」	所管部課名	教育部 郷土博物館
事務事業名	郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進	電話番号	042-481-7656
事業の概要（協働を行った事業の説明と協働の方法など）			
調布市の歴史や文化について広く調査・研究・普及活動を行う市民団体である調布史談会からの提案により、文化会館たづくりの映像シアターを会場として、令和3年11月21日に地域文化講演会「史料に見る調布の用水と水車」を共催で実施した。			
協働のパートナー	調布史談会	事業提案者	パートナー
協働事業の形態	<input checked="" type="checkbox"/> 共催 <input type="checkbox"/> 実行委員会 <input type="checkbox"/> 事業協力 <input type="checkbox"/> 補助・助成	分野	文化
	<input type="checkbox"/> 情報交換・情報提供 <input type="checkbox"/> 指定管理・業務委託	関連施策※	20地域ゆかりの文化の保存と継承
役割分担	パートナーの役割	配布資料印刷、当日受付、司会、会場設営、講師謝礼の支払い	
	市の役割	講師への依頼、会場の予約、広報、申込受付、看板作成	
新規・継続の別	<input type="checkbox"/> 新規事業 <input checked="" type="checkbox"/> 継続事業 地域の歴史や文化について学ぶ事業を、市民団体からの提案に基づいて協働実施することで、市民の自主的な学習活動を育むとともに、調布に長く住む市民からは記憶に基づく証言等を収集することができ、地域の歴史や文化の調査・研究の進展と普及啓発に寄与することが期待される。		
協働したことによる成果			
市民団体の自主性や専門性を活かして、対等なパートナーとして事業を実施することができた。			
協働に当たった課題と対応			
依頼する講師や役割分担について、引き続き双方の意思疎通を図りながら、協働事業の実施を継続する。			

※ 当該事業の関連する「調布市基本計画（令和元年度～令和4年度）」の施策番号（行革プランに該当する場合はプラン番号）を記載しています。

【参考】市民参加手続の組織別実施状況

部 名	事業数			参加延人数		
	令和3年度	令和2年度	増 減	令和3年度	令和2年度	増 減
行政経営部	7	5	2	1,348	1,540	△ 192
総務部	4	9	△ 5	98	2,770	△ 2,672
市民部	1	1	0	46	2	44
生活文化スポーツ部	7	7	0	790	1,668	△ 878
子ども生活部	8	7	1	3,302	2,360	942
福祉健康部	13	12	1	799	605	194
環境部	6	7	△ 1	1,008	373	635
都市整備部	15	17	△ 2	5,504	5,327	177
教育部	8	8	0	2,358	539	1,819
小計(市民参加手続)	69	73	△ 4	15,253	15,184	69
市政関連相談	—	—	—	2,951	2,865	86
合 計	69	73	△ 4	18,204	18,049	155

【参考】協働事業の組織別実施状況

部 名	事業数		
	令和3年度	令和2年度	増 減
行政経営部	12	8	4
総務部	6	2	4
市民部	2	1	1
生活文化スポーツ部	51	40	11
子ども生活部	7	8	△ 1
福祉健康部	8	8	0
環境部	5	5	0
都市整備部	7	12	△ 5
教育部	19	13	6
合 計	117	97	20

◆市民参加・協働実践状況報告書に関するご意見・ご感想をお寄せください

今後の市民参加・協働の取組における参考とさせていただくため、本冊子「令和3年度市民参加・協働実践状況報告書」の内容等を踏まえ、皆様のご意見・ご感想をお聞かせください。

<例>

- ・市民参加と協働の取組全般について
 - ・調査結果，各実践事業の取組内容について
 - ・本調査の公表内容，公表方法について
- など

【提出方法】

「郵送」，「ファクシミリ」，「電子メール」などにより，ご意見・ご感想をお寄せください。

【提出様式】

様式の指定はございません。

※裏面に参考様式を掲載していますのでご活用ください。

【提出先】

〒182-8511 調布市小島町 2-35-1

調布市行政経営部企画経営課（市役所 5 階）

ファクシミリ：042-485-0741

電子メール：kikaku@city.chofu.lg.jp

「令和3年度市民参加・協働実践状況報告書」に関するご意見・ご感想

◆ご意見

※改善等に関するご提案をいただける場合は、できるだけ具体的にお願いします。

市民参加事業名 ・協働事業名	取組等に関する意見・改善等の提案 など

◆ご感想

※「市民参加の取組」,「協働の取組」に関し、どのような内容でも結構です。

☆ご意見等をお寄せいただいた方の「年代」・「お住まい」について
お聞かせください (該当するものに○をつけてください。)

年代： 10 歳代以下 ・ 20 歳代 ・ 30 歳代 ・ 40 歳代
50 歳代 ・ 60 歳代 ・ 70 歳代 ・ 80 歳代以上
お住まい： 市内 (町名：) ・ 市外

ご協力ありがとうございました。

切
り
取
り

登録番号
(刊行物番号)

2022-94

令和3年度 市民参加・協働
実践状況報告書

発行日 令和4年8月

発行 調布市

編集 行政経営部 企画経営課

〒182-8511 調布市小島町 2-35-1

Tel 042-481-7368, 7369

印刷 庁内印刷